入選

環境を共創する

第五学年　合田悠馬

ぼくは地球温暖化を防ぐために地球環境への負担を減らすべきだと考える。

なぜなら、日常の中で出る二酸化炭素や電気の使用量は僕たちの選択しだいで大きく変えられるからだ。

しかしこの考え方に対して「一人では意味がない」という反論が考えられる。確かに工場などから出る二酸化炭素の量とぼくたちがだす二酸化炭素の量の差は大きい。だがこの考え方が広まれば、だれも行動を起こさなくなるかもしれない。

だけど一人一人の小さな積み重ねがクラス全体、学校全体、地域全体となると、工場と僕たちの差はちぢむかもしれない。だから、ぼくは「一人では意味がない」という考えは正しくないと思う。

未来の創り手として、エコな生活をするために必要のない電気は消す、近い距離は歩き

や自転車を使うなどをすることが大切だと考える。

　便利を求めれば地球への負担がかかる。地球はぼくたちのものだけでなく、次世代の人のものでもある。だから、今を生きるぼくたちが地球にやさしい生活を選ぶべきだと考える。

20 × 20